

## 輸出で復活？ ニッポンの林業！

先月 11 日、NHK で「輸出で復活？ ニッポンの林業」という番組が放映されました。鹿児島県の木材輸出の紹介でした。近年木材輸出は増えておりここ 10 年で 30 倍以上になっている。九州が全国の 80% を輸出しており、中でも志布志港は全体の 40% を輸出している。

番組を見て林業にも明るい未来が期待できるように思えた。実際、当社にも「裏山の木を切ったけど、輸出等で高く売れないか？」等の電話があった。日置森林組合にも似たような問い合わせが多数あったという。

しかし、県内の木材市場を見てみると原木は輸出やバイオマスへの供給が増えた分、製材用の出荷は少ない。需要はあるが、製材品の価格が上がらない為、高くは売れない。山側は少しでも利益を出す為には、製材適材も選別作業を省略して輸出やバイオマスに出荷することが増えている。

また、輸出やバイオマスの需要に応えるべく皆伐が増え、ハゲ山が増えてきた。再造林するには利益が少なく、山主は再造林の意欲が沸かない。不在地主は現状を把握できずに、伐採事業者任せである。鹿児島県は再造林率 30% と全国最下位であり、このままでは数十年後には伐る山がなくなるのではと心配する声も聞かれる。県内の森林組合や一部林業事業者では、皆伐したら必ず植林するよう山主に勧め、5 年間ほど下草刈り、除伐等を積極的に応援している。しかし、伐採しか行わない事業者も多く、再造林率はなかなかあがらない。伐採しか行わない業者が伐り出した山は荒れ、再造林にも余分なコストが掛かる為、森林組合もなかなか手を出せない。(再造林を考えて伐採すると、地拵費はほとんど要らない)

林材協会でも、利益の出る山林経営はどうあるべきかの検討を始めた。以前「儲かる林業研究会」が同じような問題を検討していたが、今回は、実行レベルまでほり下げた検討をしたいとの事だ。例えば、単位面積当たりの成長量は変わらないという研究結果から、植栽本数を減らしたら、植栽、下草払い、除間伐、枝打ち等の単位面積当たりの管理コストが下がる。また、伐期までの 1 本当り成長量は残存本数が少ないほど大きくなり、同じ伐採量なら大きな木ほど伐採本数が少なくなり、それだけ伐採コストは安くなる。今後の木材需要を予測しながら、山造りを検討される事に期待したい。ただ、木材は成長に時間が掛かるので、その間の自然災害や、需要動向によっては、伐採時にどんな木材が必要とされるかは大きな課題だ。

### 【情報】

#### 合板の不足が続いています

熊本地域の住宅建設が旺盛で合板の入荷が難しい状況が続いています。値段は高止まりで特に厚物合板は、実無し、実有り共に 1 ヶ月前後の納期が必要です。早めの手配をお願いします。

### 【定休日】

7 月は 1, 2, 8, 9, 15, 16, 23, 30 日となります

8 月は 5, 6, 13, 14, 15, 16, 20, 26, 27 日となります

宜しくお願いします。(皆伐された山)

